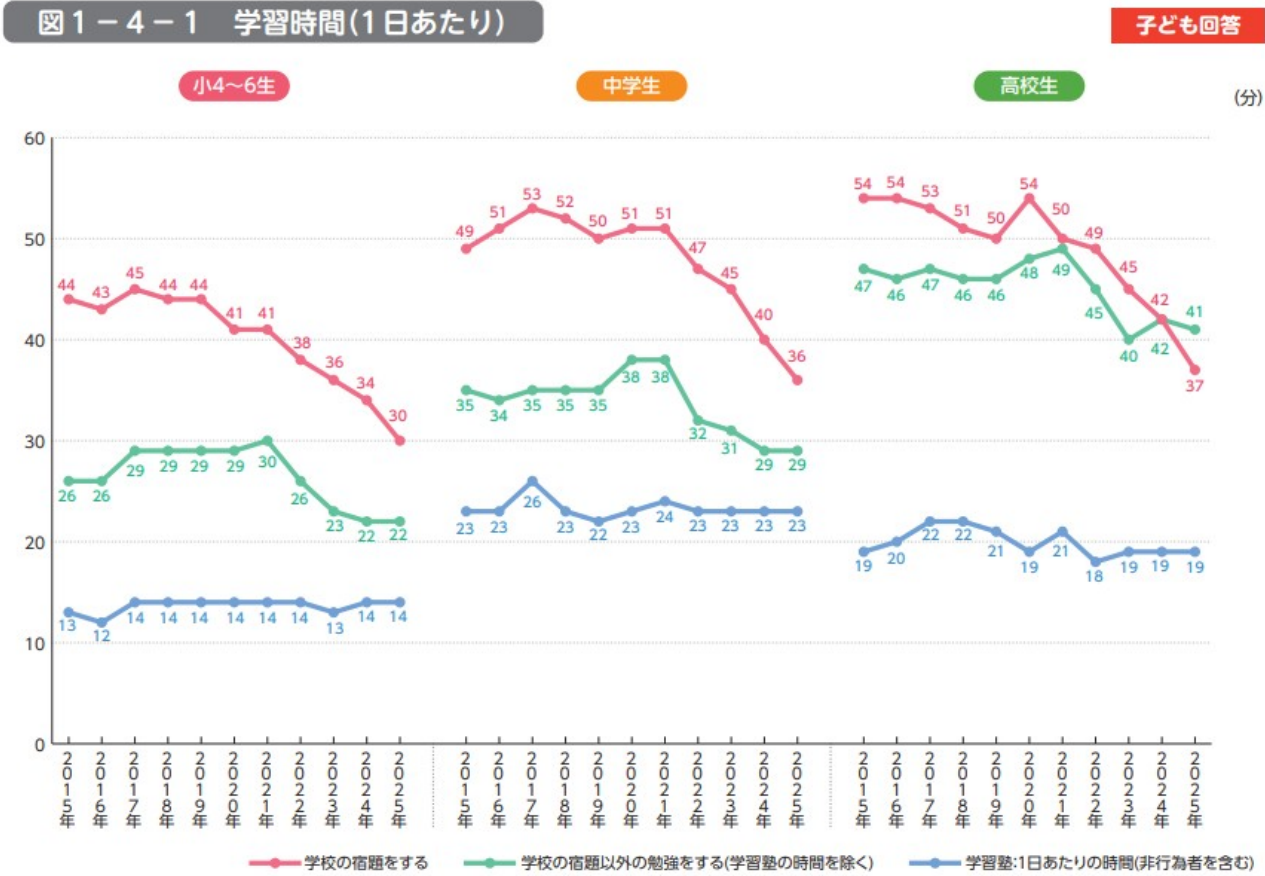


【学習時間】

過去11年間に於いて、子どもの学習時間は一貫して減少傾向にあります。
特に注目すべきは、日常的な学習習慣の基盤であった「学校の宿題」に費やす時間の縮小です。

2015年から2025年にかけて、小4～6生では44分から30分へ、中学生では49分から36分へ、高校生では54分から37分へと、いずれの層でも宿題時間が大幅に削られています。



学習時間の総計(1日あたり)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
小4～6生	83	81	88	87	86	84	84	78	72	70	66
中学生	107	108	114	110	107	112	113	102	98	93	88
高校生	119	119	123	118	116	121	120	112	105	103	97

注1 「学校の宿題をする時間」「学校の宿題以外の勉強をする時間」の平均時間は、「しない」を「0分」、「4時間」を「240分」、「4時間以上」を「300分」のように置き換えて算出。

注2 「学習塾の時間」の平均時間は、「通っていない」と回答した子どもを0分、「通っている」と回答した子どものうち「1回にどれくらいの時間、勉強していますか」という質問に対して、「30分」を30分、「1時間」を60分、「4時間」を240分、「4時間以上」を270分のように置き換え、週あたりの通塾回数をかけあわせて7で割って算出。

注3 学習時間の総計は「学校の宿題をする時間」+「学校の宿題以外の勉強をする時間(学習塾の時間を除く)」+「学習塾の時間」の平均時間。

(「子どもの生活と学びに関する親子調査2025」より引用)

【学習意欲の低下】

2016年と比較して2025年時点では、全ての学校段階で意欲や学習方法の理解が低下しています。特に「勉強しようという気持ちがわからない」と回答した割合は、小4～6生で32.7%から54.3%へと増加しており、中学生・高校生においても6割を超えています。また、「何のために勉強しているのかわからない」という回答については、小4～6生で20.9%から40.2%と約2倍に増加しています。

図1-7-1 学習意欲・学習方法の理解

子ども回答



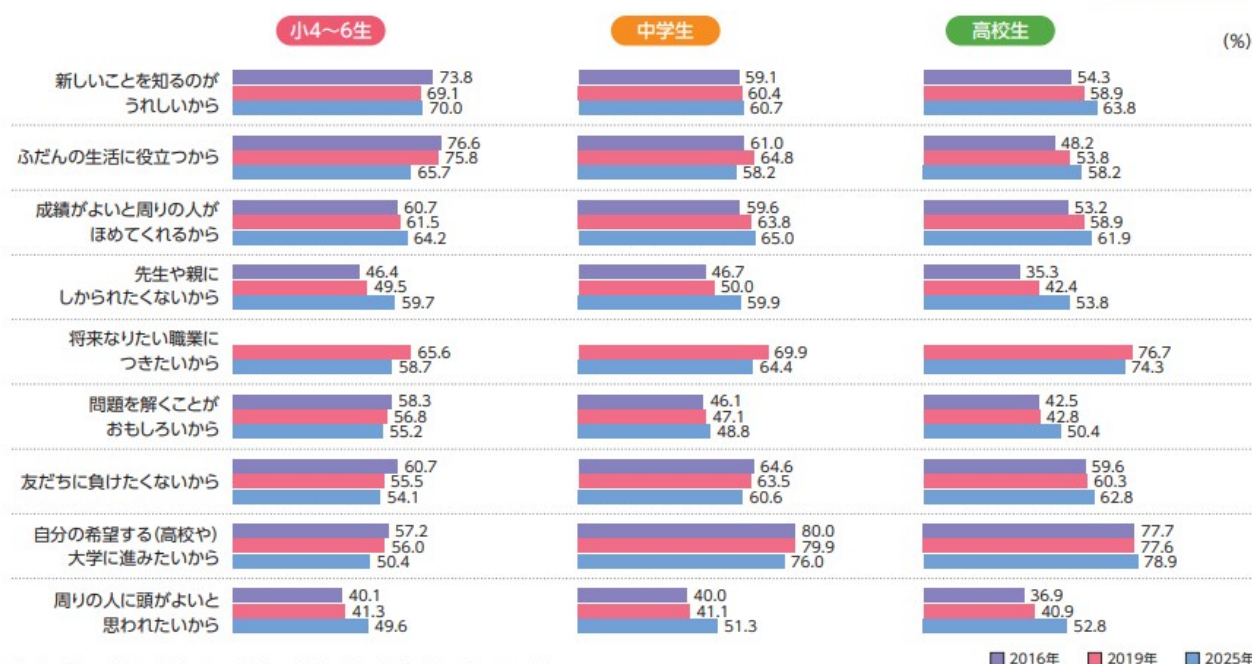
(「子どもの生活と学びに関する親子調査 2025」より引用)

《参考：学習動機》

学習動機に目を向けると、いずれの学校段階でも他者からの評価を意識する回答が増えています。

図1-7-2 学習動機

子ども回答



注1 「とてもあてはまる+まああてはまる」の%。(図1-7-1、2)

注2 2025年の小4～6生の数値の降順に示す。(図1-7-2)

注3 「将来なりたい職業につきたいから」は2016年はたずねていない。(図1-7-2)

(「子どもの生活と学びに関する親子調査 2025」より引用)